



和泉山脈西部  
“川上新道”  
1997.1.26



榎ノ子峠

迎る季節は見通しのきく冬場が最高で、五月の後半から一〇月頃までの草の茂る期間は避けたい。

### コース

南海本線樽井駅から近畿大学行の南海バスに乗り、つづら畑下車。バス道を南へ少し行った右側に山へ登っている道がある。これは関電道で、それをとらずに、次の田んぼと山際との間の山道に入り、小さい谷川に沿って登っていくと峠に出る。その手前に「四石山へ」とした標識があり、この峠にも「和泉山脈GOKM縦走」と「川上新道」の二つの標識を見る。「GOKM縦走」の方は峠を下って楠畑集落に向かうのに対し、「川上新道」は尾根伝いに楠峠に向かう。

といっても最初のうちはテープもないので、気をつけながら、わずかな踏み跡を頼って登っていく。そして府県境尾根に出た所で道は二つに分かれる。そこを右にとり、少し下ってまた登りだすと、左側は大きく切れ落ちる。足下は大規模な採石場だ。旧根来街道を挟んで両側はガレになり、ダンブがしきりに往来している。

それから四、五度登り下りを繰り返して、小さい峠のような所に來るが、そこは楠峠ではなく、峠はもうひと山向こうだ。そしてピークに登った所でコースは左に折れる。ここで注意したいことは、まっすぐに北に向かう明るい尾根を進まないように。コース中は赤テープなどがあるので、よく探すこと。テープや境界石、それに境界見出票がなくなった場合は、コースを取り違えているので、元に戻りよく探すことが大切。